

2013年11月28日

ウェザーニューズ、2014年の花粉飛散傾向発表

来春の花粉、2月上旬から花粉シーズン到来の見込み、花粉症の対策は1月から～飛散ピークは昨シーズンより遅め、西・東日本は3月上旬～中旬、北陸は3月下旬と予想～

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区 代表取締役社長：草開千仁）は、11月28日（木）、2014年の花粉シーズンにおける全国および、各12エリアの“スギ・ヒノキ花粉飛散”傾向を発表しました。本発表は、花粉症に悩む方にシーズンの花粉傾向を知ってもらい、早めの対策を取ってもらうことを目的としています。2014年の花粉飛散開始時期は昨シーズンとほぼ同じく、2月はじめ頃から関東地方を中心に飛散開始となる予想です。2013年のシーズンは3月に非常に暖かい日が多く、スギ花粉・ヒノキ花粉の飛散量がピークに達する時期は、平年より1週間～10日間前後早くなりました。しかし、2014年のシーズンは昨シーズンよりやや寒くなる予想であるため、花粉飛散量のピークは昨シーズンより遅く、東～西日本で3月上旬～中旬、北陸地方で3月下旬、東北地方で4月上旬～中旬となる見通しです。また、来シーズンの飛散量は平年並み～やや多めとなる地域が多く、2月はじめになると花粉が飛散し始める地域もあるため、1月のうちに花粉症への対策を始めると良さそうです。

◆ 来春の飛散時期傾向

スギの雄花は、寒さがピークを越えて暖かい日が増え始めると、休眠を終えて花粉を飛ばし始めます。この冬も強い寒気が流れ込んで厳しい寒さとなり、2014年の1月～2月の気温は平年よりやや低くなる予想です。しかし、2013年1～2月の気温が特に低かったため、2013年と比較すると、2014年の1月～2月は2013年と同程度か、2013年よりやや高めの気温となる予想です。2月に入る頃になると、関東地方や九州南部などでスギ花粉が飛散し始め、2月中旬には、東海や西日本各地で飛散が開始する見通しです。

寒気の影響を受けやすい北陸地方や東北地方では、2月下旬から3月上旬に飛散開始となる見込みです。北海道でも道南など一部のエリアにはスギ花粉が飛散することがあり、このエリアでは3月中旬以降に飛散開始となりそうです。また、東～北日本に関しては、2013年の春とほぼ同じ時期に飛散が始まり、西日本では昨シーズンよりもやや早い時期に開始する可能性があります。なお、ウェザーニューズでは、花粉観測機『ポールンロボ』を使用し、花粉を10個を観測した日が2日以上あった場合に飛散開始と定義し、各エリアの飛散開始時期を発表しています。

スギ花粉は飛散開始から1週間～10日間前後で本格的に飛散しはじめ、花粉飛散量は東北地方で4月上旬～中旬、北陸地方で3月下旬、関東～西日本の各地で3月上旬～中旬にピークとなる見通しです。昨



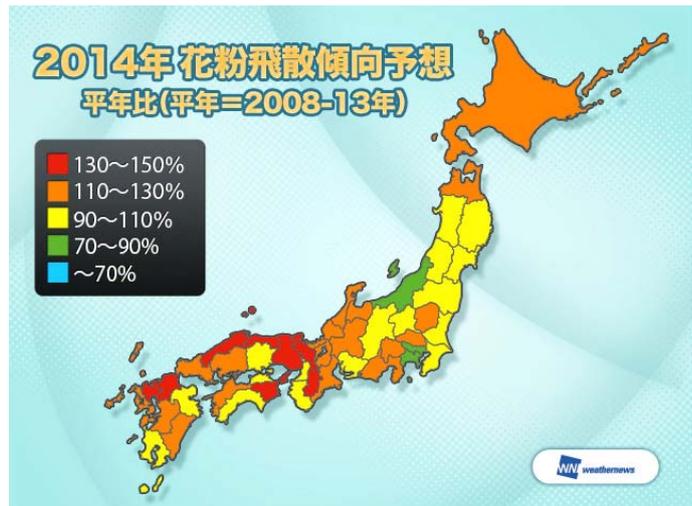
シーズンは3月が記録的に暖くなったため、花粉飛散量のピークが例年より1週間～10日程度早まりましたが、2014年の春は、ほぼ例年並みの時期にピークを迎えそうです。スギ花粉の飛散量がピークを過ぎた後は、桜の花が咲く頃にヒノキ花粉の飛散量が増え、西～東日本では4月上旬～中旬にヒノキの花粉飛散量がピークとなる見通しです。また、平年（2008年～2013年の平均飛散開始時期）と比較すると、2014年の花粉飛散開始時期は全国平均で平年並みとなる見通しですが、九州南部など一部地域では平年より3～5日程度早くなる見通しです。

◆ 来春の飛散量の傾向

一般的に、よく晴れて暑い夏ほど植物の光合成が盛んになり、雄花の生産量が多くなるという理由から、スギ花粉のもととなる雄花生産量は前年の夏の天候との相関が高くなっています。2013年の夏の天候は、全国的に晴れて暑い日が多く、東海以西を中心によく晴れて厳しい暑さとなり、雄花の生育に適した条件であったと考えられます。

また、花粉が多く飛散した翌年は飛散量が少なくなったり(裏年)、少ない年の翌年は多くなったり(表年)と、花粉の飛散量は交互に増減する傾向があります。2013年の花粉シーズンは全国的に花粉飛散量の多い表年となったため、2014年の花粉シーズンは裏年となる見通しです。ただし、九州では近年は年ごとの飛散量の差が明瞭ではなく、はっきりと表年・裏年の傾向が現れていない県もあります。

さらに、スギ・ヒノキ林の活性度や、ウェザーリポーターと花粉の発生源となるスギ雄花を調査した「雄花レポート」の報告も考慮すると、2014年の花粉飛散量は、平年（2008年～2013年の平均飛散量）と比べて、全国平均で1割程度増加する予想です。エリア別では、北海道～関東、甲信、北陸で平年並みとなる予想ですが、東海から九州の飛散量は2割増加する見込みです。統計的に花粉が飛びにくい年になる地域が多いですが油断はできない年になります。また、2013年と比較すると、2014年の花粉飛散量は全国平均で2割程度少なくなる見通しです。なお、これまでに報告された症状や対策の報告を見ると、症状を和らげるには花粉を体内に取り込まないような対策が有効になりそうです。2月以降は徐々に花粉飛散量が増えていくので、早めに事前の対策をとることをおすすめします。



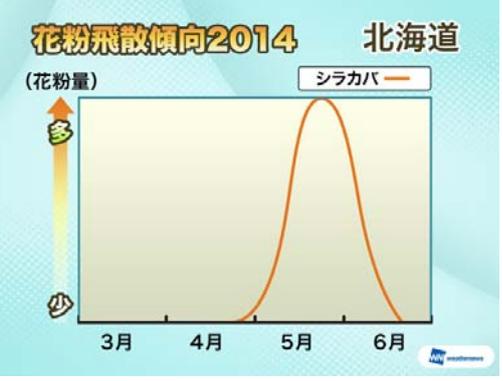
◆全国各地のスギの『雄花レポート』

スマートフォンアプリ「ウェザーニュースタッチ」には、“ウェザーリポーター”と呼ばれる全国各地の会員から、天気などに関する様々なリポートが1日に2～3万通ほど寄せられます。下記の写真は、今年の11月9日（土）～17日（日）に“ウェザーリポーター”に募集を行ったスギの『雄花レポート』です。今回の雄花調査では、9月末～10月の『雄花レポート』と同様に、北～東日本からは昨年より少ないという報告が多くなりましたが、東海地方以西からは昨年と同じくらい、または例年並みという報告が見受けられました。

また、9月末～10月に調査した雄花が膨らみ、緑色から薄茶色へと順調に成長している様子が見られます。

<p>山形県山形市 11月16日</p>  <p>例年よりずっと少ないように思います。</p>	<p>神奈川県秦野市 11月17日</p>  <p>去年リポしていたこの枝は、去年はびっしり雄花が付いていましたが、今年はかなり少ないです。</p>	<p>山梨県上野原市 11月17日</p>  <p>前回より茶色で大きくなって来ました！昨年より少ないです</p>	<p>富山県小矢部市 11月17日</p>  <p>例年と変わらない感じですね</p>
<p>滋賀県大津市 11月17日</p>  <p>例年並みか少し多いかも</p>	<p>島根県益田市 11月16日</p>  <p>例年より沢山付いてます。ほぼ全部の枝の先端は蓄みたいなのでいっぱい。</p>	<p>福岡県みやま市 11月17日</p>  <p>いつもくらいのつき方をしてそうです。</p>	

◆エリアごとの花粉飛散傾向

エリア	スギ花粉飛散時期 (昨シーズンと比べて)	スギ・ヒノキ花粉量 (平年と比較)	スギ・ヒノキ花粉飛散時期予想 (北海道はシラカバ花粉)
北海道	やや早い	110% (シラカバ花粉)	<p>花粉飛散傾向2014 北海道</p> 
	<p>シラカバ花粉の飛散開始は、3月以降の気温に大きく影響されると考えられます。飛散開始は昨シーズンよりやや早く、寒さが緩む4月下旬くらいになり、平年並みの飛散開始となる予想です。ピークは5月中旬～下旬で、GW頃から飛散量が多くなる予想で、6月中旬には少なくなる見通しです。</p> <p>シラカバ花粉の飛散量はスギ・ヒノキ花粉と同様に、前年の夏の天候によって決まり、晴れて暑い夏である程、花粉のもととなる雄花の生育がよくなり、花粉の飛散量が多くなります。2013年の夏は、全般に晴れて暑くなる日が多くなりましたが、来シーズンは統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。これら総合的に判断すると、2014年春の花粉シーズンは、2013年の80%程度となる予想ですが、平年の110%の飛散量になる見通しです。裏年となっても油断できない状況ですので、十分な対策が必要になりそうです。</p>	100%	

東北北部

2月中はまだ厳しい寒さが続きますが、昨シーズンよりやや暖かくなりそうです。しかし、3月は昨シーズンより寒い傾向で、東北北部でスギ花粉が飛び始めるのは、寒さが緩んでくる2月末～3月上旬と予想しています。昨シーズンと比較するとほぼ同じ時期、平年と比べると同程度の飛散開始時期となりそうです。その後、1週間～10日間程で本格飛散シーズンに突入し、4月中旬が花粉飛散のピークとなる予想です。

また、2013年の夏は雄花の生育に適した天候となり、来シーズンは統計的に花粉の飛散量が少ない年（裏年）となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花レポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約80%、平年の90～120%の飛散量となる予想です。裏年となっても油断できない状況ですので、十分な対策が必要になりそうです。

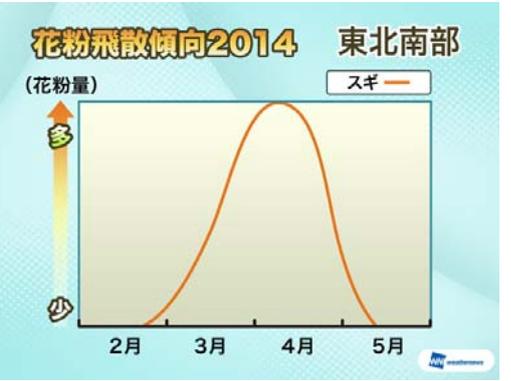


東北南部

同じくらい	100%
-------	------

2月中はまだ厳しい寒さが続きますが、昨シーズンよりやや暖かくなりそうです。しかし、3月は昨シーズンより寒い傾向になると予想しており、東南北部では寒さが緩んでくる2月中旬から太平洋側で花粉が飛び始め、3月はじめにかけて次第に日本海側へと飛散開始エリアが拡大する見込みです。飛散開始時期は昨シーズンとほぼ同じ時期で、平年と比較すると同程度か、やや遅めになりそうです。その後、1週間～10日間程で本格的な飛散シーズンに突入し、4月上旬～中旬がピークとなる予想です。

また、2013年の夏は雄花の生育に適した天候となり、来シーズンは統計的に花粉の飛散量が少ない年（裏年）となります。しかし、2013年の花粉シーズンは2008年以降では最多クラスの飛散量となり、2014年はその裏年となります。森林の活性度や、サポーターからの「雄花レポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約50%ですが、平年並みの飛散量となる予想です。飛散量は2013年より少なくなりますが、平年並みの飛散量にはなるので、十分な対策が必要になりそうです。

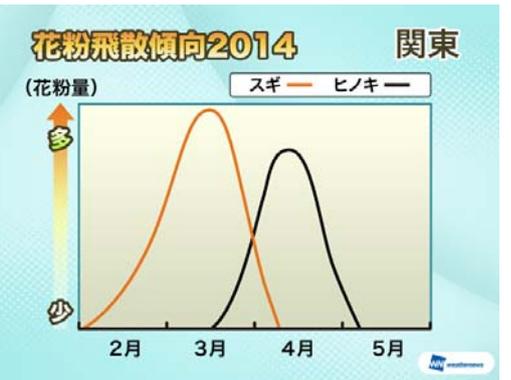


関東

同じくらい	100%
-------	------

2月に入る頃になると、一時的に寒さが緩むタイミングがあり、例年飛散開始が早い傾向にある関東地方は、2月はじめ頃からスギ花粉の飛散が開始する地域がありそうです。この冬も厳しい寒さとなる日があるものの、昨シーズンや例年と同じくらいの時期に飛散開始となる予想です。その後、1週間～10日間程で本格的な花粉飛散シーズンとなり、3月上旬～中旬にスギ花粉の飛散量はピークとなる見通しです。スギ花粉のピークが過ぎた後は徐々にヒノキ花粉が飛び始め、4月上旬～中旬に飛散量がピークを迎える地域が多くなりそうです。

2013年の夏は全般に晴れて暑くなる日が多くなりましたが2012年夏に比べると曇りや雨の日がやや多くなり、天候面では2012年の夏よりも雄花の生育に不向きな条件となりました。また、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年（裏年）となり、森林の活性度や、サポーターからの「雄花レポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約60%の飛散量になる見通しで、少ない県で約50%、多い県では約70%になる予想です。飛散量は2013年よりは少なくなりますが、平年より多い飛散量になる地域もあるので、十分な対策が必要になりそうです。



同じくらい	110%
-------	------

北陸・甲信
北部
(甲信北
部は、
長野県北
中部)

2月中はまだ厳しい寒さが続きますが、2月下旬になると次第に寒さが緩んでくる予想です。昨シーズンと比較すると、2月はやや暖かくなる見通しですが、3月は昨シーズンより低めの気温となる予想です。このため、飛散開始時期は、昨シーズンと同様に2月中旬～下旬となり、平年並み～やや遅くなる見込みです。その後1週間～10日程で本格飛散シーズンに突入り、3月下旬が花粉飛散のピークになりそうです。

また、2013年の夏は全般にスギの雄花の生育に適した条件となりましたが、2014年の春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約70%の飛散量になる見通しで、少ない県で約50%、多い県では約80%となる予想です。また、平年と比較すると、新潟県では平年の90%前後、その他では平年並み(100%)～120%の飛散量となる予想です。飛散量は2013年より少なくなります。平年並みまたは平年より多い飛散量になる予想なので、十分な対策が必要になりそうです。



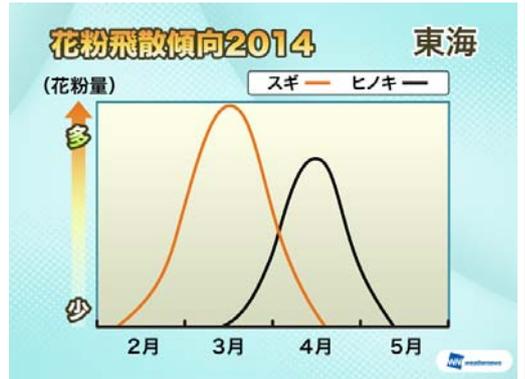
東海・甲信
南部
(甲信南
部は、
長野県南
部と
山梨県全
域)

同じくらい	110%
-------	------

2月に入る頃になると、一時的に寒さが緩むタイミングがあり、例年飛散開始が早い傾向にある東海地方では、2月上旬からスギ花粉の飛散開始となる地域がありそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多いものの、昨シーズン並みかやや高めめの気温となる予想で、飛散開始時期は昨シーズン並み、平年と比較しても平年並み～やや遅くなる見通しです。

その後は、1週間～10日間程で本格的な飛散シーズンとなり、3月中旬にスギ花粉の飛散量がピークとなる見通しです。スギ花粉のピークが過ぎた後は徐々にヒノキ花粉が飛び始め、4月上旬～中旬にはヒノキ花粉の飛散量がピークとなる地域が多くなりそうです。

また、2013年の夏は全般に晴れて暑くなる日が多くなり、雄花の生育に適した天候となりましたが、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約80%の飛散量になり、少ない県では約50%、多い県では約90%となる見通しです。また、平年と比較すると100～120%の飛散量となる予想です。飛散量は2013年より少なくなります。平年並みまたは平年より多い飛散量となる予想なので、十分な対策が必要になりそうです。

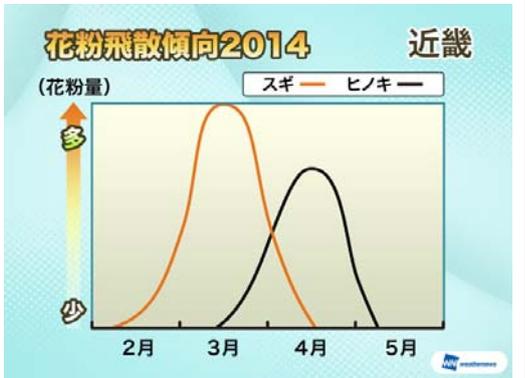


近畿

同じくらい	130%
-------	------

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増えそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想で、飛散開始時期も昨シーズンとほぼ同じ2月中旬となり、平年並みとなる予想です。その後1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月中旬にスギ花粉のピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月中旬に飛散量がピークを迎える地域が多くなる見通しです。

また、2013年の夏は全般に晴れて暑くなる日が多くなり、雄花の生育には好条件となりましたが、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約90%の飛散量になる見通しで、2013年に近い飛散量となる可能性もあります。また、平年と比較すると、平年の100～150%の飛散量となり、特に近畿北部を中心に平年の150%前後の飛散量となる予想です。裏年にはなりませんが、2013年並みの飛散量となり、さらに、平年よりも多い飛散量となる地域もあるため、十分な対策が必要になりそうです。

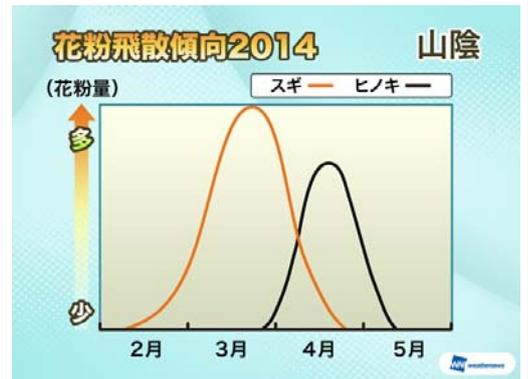


同じくらい	140%
-------	------

山陰

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増えそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想で、飛散開始時期も昨シーズンとほぼ同じ2月中旬となり、平年並みとなる予想です。その後、1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月中旬にスギ花粉のピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月中旬にピークを迎える地域が多くなる見通しです。

また、2013年の夏は全般に晴れて暑くなる日が多くなり、雄花の生育には好条件となりましたが、2014年の春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約80%の飛散量になる見通しで、平年の140%前後の飛散量となる予想です。裏年にはなりますが、飛散量は2013年よりやや少ない程度で、さらに平年よりも多い飛散量となるため、十分な対策が必要になりそうです。

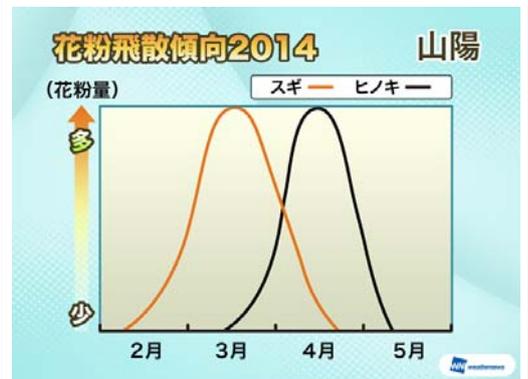


山陽

同じくらい	120%
-------	------

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増えそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想で、飛散開始時期も昨シーズンとほぼ同じ2月中旬となり、平年並みとなる予想です。その後、1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月中旬にスギ花粉の飛散量がピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月中旬にはヒノキ花粉がピークを迎える地域が多くなる見通しです。

また、2013年の夏は全般に晴れて暑くなる日が多くなり、雄花の生育には好条件となりましたが、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約80%の飛散量になる見通しです。また、平年の100～130%の飛散量となり、西のエリアほど平年よりも多い飛散量となる予想です。裏年にはなりますが、2013年並みの飛散量となり、さらに平年よりも多い飛散量となる地域もあるため、十分な対策が必要になりそうです。

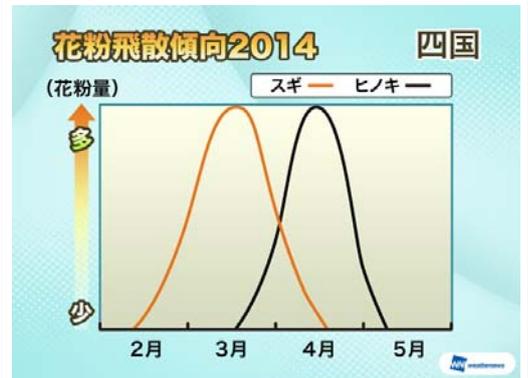


四国

同じくらい	120%
-------	------

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増えそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想で、飛散開始時期も昨シーズンとほぼ同じ2月中旬となり、平年並みとなる予想です。その後1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月中旬にスギ花粉の飛散量がピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月中旬にヒノキの花粉飛散量がピークを迎える地域が多くなる見通しです。

また、2013年の夏は全般に晴れて厳しい暑さとなり、雄花の生育には好条件となりましたが、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年(裏年)となります。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約90%の飛散量になる見通しで、2013年に近い飛散量となる可能性もあります。また、平年と比較すると、100～150%の飛散量となる予想です。裏年にはなりますが、2013年並みの飛散量となり、さらに平年よりも多い飛散量となる地域もあるため、十分な対策が必要になりそうです。



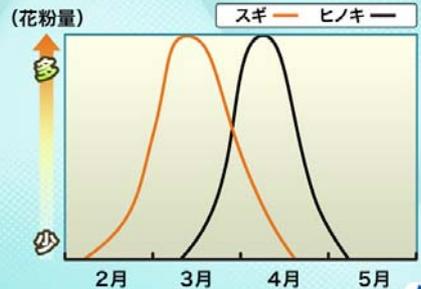
同じくらい	130%
-------	------

九州北部

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増える見込みです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想で、飛散開始時期も昨シーズンとほぼ同じ2月中旬となり、平年並みとなる予想です。その後、1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月上旬～中旬にスギ花粉の飛散量がピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月上旬～中旬にヒノキ花粉の飛散量がピークを迎える地域が多くなる見通しです。

2013年の夏は全般に晴れて厳しい暑さになり、雄花の生育には好条件となりました。また、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年（裏年）となりますが、九州北部では明瞭に表年・裏年が現れない傾向があるようです。さらに、森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約90%の飛散量になる見通しで、少ない県では2013年の約80%、多い県では130%程度となる見通し、平年と比較すると、110～150%の飛散量となる予想です。裏年にはなりますが、2013年並み、または、2013年より多い飛散量となる県もあり、さらに平年よりも多い飛散量となるため、十分な対策が必要になりそうです。

花粉飛散傾向2014 九州北部



同じ～やや早い

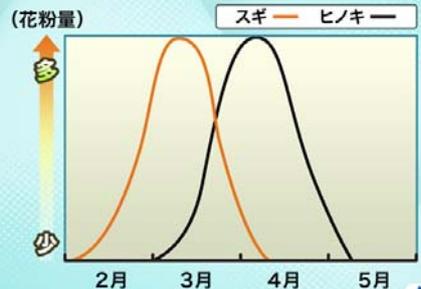
110%

2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、次第に春の到来を感じさせる暖かい日が増えそうです。この冬も厳しい寒さとなる日が多くなりますが、2月は昨シーズン並みの寒さとなる予想です。ただ、飛散量が昨シーズンより多い予想となっている県では、昨シーズンよりも花粉が飛散しやすく、飛散開始時期は、昨シーズンとほぼ同じ～やや早く、2月上旬から飛散開始となる予想です。その後、1週間～10日間程で本格的な花粉シーズンとなり、3月上旬～中旬にスギ花粉の飛散量がピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が徐々に飛び始め、4月上旬～中旬にヒノキの花粉量がピークを迎える地域が多くなる見通しです。

2013年の夏は全般に晴れて厳しい暑さになり、雄花の生育には好条件となりました。また、2014年春は統計的に花粉の飛散量が少ない年（裏年）となります。しかし、九州南部では明瞭に表年・裏年が現れない傾向があるようです。森林の活性度や、サポーターからの「雄花リポート」も考慮すると、2014年春の花粉シーズンは、平均で2013年の約130%の飛散量になる見通しで、少ない県では2013年と同程度、多い県では150%程度となる見通しです。また、平年の100～130%の飛散量となる予想です。2013年や平年よりも多い飛散量となる地域もあるため、十分な対策が必要になりそうです。

九州南部

花粉飛散傾向2014 九州南部



◆各都道府県ごとの花粉飛散傾向

エリア	都道府県	花粉飛散量 (昨年比：%)	花粉飛散量 (平年比：%)	花粉シーズン イン予想	花粉シーズン アウト予想
北海道	北海道	80%	110%	4月下旬	6月中旬
東北	青森県	80%	120%	3月上旬	5月中旬
	岩手県	90%	100%	2月下旬	5月中旬
	秋田県	90%	90%	3月上旬	5月中旬
	宮城県	50%	100%	2月中旬	5月中旬
	山形県	60%	100%	2月下旬	5月中旬

	福島県	50%	100%	2月中旬	5月中旬
関東	茨城県	60%	100%	2月上旬	5月上旬
	栃木県	60%	120%	2月上旬	5月上旬
	群馬県	50%	100%	2月上旬	5月上旬
	埼玉県	50%	120%	2月上旬	5月上旬
	千葉県	70%	100%	2月上旬	5月上旬
	東京都	50%	80%	2月上旬	5月上旬
	神奈川県	50%	80%	2月上旬	5月上旬
	中部	山梨県	50%	120%	2月上旬
長野県		60%	100%	2月中旬	5月中旬
新潟県		50%	90%	2月下旬	5月中旬
富山県		70%	120%	2月下旬	5月中旬
石川県		80%	120%	2月下旬	5月中旬
福井県		70%	120%	2月下旬	5月中旬
静岡県		80%	120%	2月上旬	5月上旬
愛知県		90%	100%	2月中旬	5月上旬
岐阜県		80%	120%	2月中旬	5月中旬
三重県		80%	120%	2月中旬	5月上旬
近畿		滋賀県	90%	120%	2月中旬
	京都府	90%	140%	2月中旬	5月上旬
	大阪府	90%	100%	2月中旬	5月上旬
	兵庫県	90%	150%	2月中旬	5月上旬
	奈良県	80%	130%	2月中旬	5月上旬
	和歌山県	100%	100%	2月中旬	5月上旬
中国・四国	岡山県	80%	100%	2月中旬	5月上旬
	広島県	80%	120%	2月中旬	5月上旬
	鳥取県	80%	150%	2月中旬	5月上旬
	島根県	80%	130%	2月中旬	5月上旬
	山口県	80%	130%	2月中旬	5月上旬
	徳島県	80%	150%	2月中旬	5月上旬
	香川県	90%	100%	2月中旬	5月上旬
	愛媛県	80%	130%	2月中旬	5月上旬
	高知県	90%	110%	2月中旬	5月上旬
九州	福岡県	80%	140%	2月中旬	5月上旬
	佐賀県	130%	150%	2月中旬	5月上旬
	長崎県	80%	120%	2月中旬	5月上旬
	大分県	80%	110%	2月中旬	5月上旬
	熊本県	90%	120%	2月中旬	5月上旬
	宮崎県	100%	130%	2月上旬	5月上旬
	鹿児島県	150%	100%	2月上旬	5月上旬
全国	-	80%	110%	-	-

※平年値：2008年～2013年の6年平均飛散量

※花粉飛散量の求め方について

花粉の飛散量は、沖縄県を除く46都道府県に約1000台（2013年度）設置された花粉観測機「ポールンロボ」が観測した数値をもとに算出されています。また、花粉飛散傾向の予想は、過去の花粉飛散量と前年の夏の天候やエリア別の飛散傾向、また全国から寄せられる「雄花リポート」を分析した数値結果です。